

遠藤周作学会会報

第 6 号

2011 年 10 月 16 日

発行 遠藤周作学会

代表 笠井 秋生

二〇一一年度遠藤周作学会・総会報告
事務局より

機関誌『遠藤周作研究』投稿規定

◇第六回二〇一一年度遠藤周作学会・全国大会開催

第六回二〇一一年度遠藤周作学会・全国大会は、二〇一一年九月十七日（土）に、山口県下関の梅光学院大学にて開催された。

運営委員会が行われた後、一三時より梅光学院大学の奥野政元氏より開会の辞が述べられ、梅光学院大学学長の中野新治氏よりご挨拶をいただき、以下プログラムのとおり研究発表が行われた。続いて、本学会顧問で梅光学院大学の佐藤泰正氏による講演が行なわれ、その後、総会が開かれた。大会進行役はノートルダム清心女子大学の山根道公が担当した。

プログラム

【研究発表】

① 遠藤周作『鉄の首枷 小西行長伝』論

— 小西行長の信仰

関西学院大学大学院 岩崎里奈

司会 昭和女子大学 笛木美佳

② 二つの原罪を共視した遠藤周作

— 「心の台本」と日本神話からのアプローチ—

城西大学 太原正裕

司会 横浜女子短期大学元教授 兼子盾夫

③ アニエス・ヴァルダの『幸福』を観る遠藤周作

白百合女子大学 福田耕介

司会 関西学院大学 細川正義

【講演】

④ 闘う作家遠藤周作をめぐって

梅光学院大学 佐藤泰正

【総会】

総会は、議長に星美学園短期大学の武田秀美氏を選出して開かれた。まず、二〇一〇年度事業報告がなされた。内容は次のとおり。

◆ 第五回二〇一〇年度遠藤周作学会・全国大会を長崎市立遠藤周作文学館にて開催

◆ 機関誌『遠藤周作研究』第4号発行

第五回遠藤周作学会の発表者四氏に加え、ほか二氏の投稿論文、書評、二〇一〇年遠藤周作参考文献目録及び研究展望も収録。

◆ 創刊号は完売、第二号は残部四五部、第三号残部七五部有り。一部千円（送料込）で販売も行う。

◆ 会員数は、二〇一一年九月一八日時点で七九名。二〇一〇年度の新会員は六名。退会一名。次に、事務局より二〇一〇年度会計報告が行われ、

太原正裕氏、今井真理氏、兼子盾夫氏により監査報告がなされ、承認された。

続いて、事務局より二〇一一年度事業計画について示され、承認された。内容は次のとおり。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』第5号発行について
投稿規定の字数について現行の四〇〇字詰原稿用紙に換算して三〇枚以内を、四〇枚以内に改訂する案が出され、承認された。

◆ 二〇一二年九月発行予定、原稿締切は二〇一二年三月末。必ず四〇枚厳守で完全原稿を提出のこと。ただし、投稿希望者は、十二月末日までに投稿論文のタイトルを明記の上、事務局に執筆の申し込みをすること。（規定は本会報の四ページに掲載）

◆ 二〇一二年度の大会は、京都外国語大学で、九月十五日（土）に開催。

最後に山梨英知大学の川島秀一氏の閉会の辞をもつて全国大会の日程を終了する予定が、時間がなく、迎えのバスで懇親会会場の敦煌に移動し、そこで川島氏より閉会の辞が述べられ、続いて懇親会が行われた。

■ 事務局より

▼第六回遠藤周作学会・全国大会は、佐藤泰正顧問のおられる梅光学院大学にて開催することができました。参加者は会員二五名に、聴講者が十数名加わりました。この開催のためにご尽力くださいました梅光学院大学学長の中野新治氏、同大学の奥野政元氏には改めて御礼申し上げます。

▼今回の大会の研究発表は、日本文学研究の大学院生の発表に始まり、経営学者の社会科学の視点からの発表、フランス文学者からの映画をめぐっての発表と多方面から遠藤周作に迫る、遠藤周作学会ならではのものとなりました。

そして、それに続く講演では、佐藤泰正顧問が九十歳とは思えない力強さで文学と宗教の開かれた世界を目指して戦う作家遠藤周作をめぐって熱く語られた姿から、三・一一以降のこれからの時代の中で遠藤文学の研究に携わる者のあるべき姿勢を思わずにはいられませんでした。

▼「遠藤周作研究」第5号の投稿論文を募集します。投稿規定をご覧のうえ、会員の方々の意欲的な投稿が

多く寄せられることをお待ちしております。投稿予定の方は、予め十二月末日までに投稿論文のタイトルを明記の上、事務局に執筆の申し込みをすることになっているので注意してください。

▼次回の研究発表の申込みは来年五月末日締切りです。三月に改めて募集のお知らせをいたします。次の会場は、長濱拓磨運営委員の所属する京都外国語大学です。遠藤文学とも関係の深いスペイン、ポルトガル、メキシコなどの専門家のいる大学です。充実した研究発表が多くなされることを期待します。

▼今回も健康上の都合で笠井代表が参加できませんでしたが、現在ハリハビリも進み、次号の『遠藤周作研究』に論文をご寄稿いただける予定です。

また、笠井代表から『作品別研究史』についての新たな提言をいただいたのを受け、運営委員会において検討中で、来年の大会にて案を提出する予定です。会員の皆で協力して今後の研究の基礎となるような充実したものを目指していきたいと思えます。

『遠藤周作研究』 投稿規定

一 遠藤周作学会の機関誌として、広く会員の意欲的な投稿を歓迎します。投稿論文が掲載予定数を上回った場合は遠藤周作研究会で発表されたものの掲載を優先させていただきます。

二 投稿論文は原則として縦書きで、字数は四〇〇字詰原稿用紙に換算して四〇枚以内（注も含む）とします。

三 論文は完全原稿で二部提出してください（データを添付のこと）。執筆者の校正は初校のみです。

四 論文の審査などは編集委員会が行いますが、加筆・訂正などを依頼する場合があります。

五 投稿論文の執筆者には印刷費などの費用として一万円（二〇部買い取り）のご負担をお願いします。

六 投稿論文の締切りは、毎年三月三十一日（必着）とします。ただし、前年の十二月末日までに投稿論文のタイトルを明記の上、事務局に執筆の申し込みをしてください。

七 投稿先は ^遠藤周作学会事務局V。

遠藤周作学会 事務局

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9

ノートルダム清心女子大学 山根道公研究室

TEL: 086 (252) 3129

E-mail: yamane@post.ndsu.ac.jp